「こおりやまの米」通信

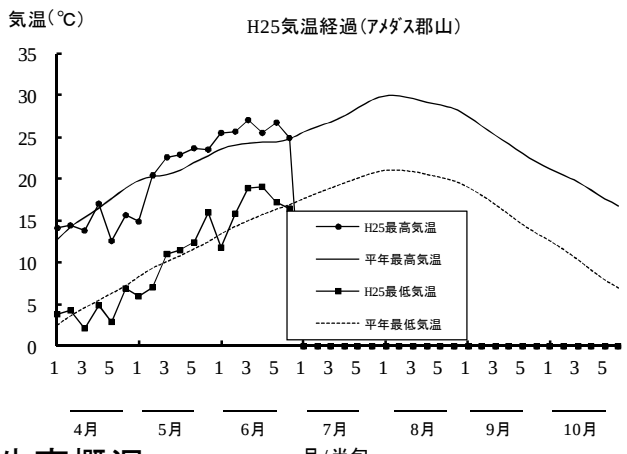
平成２５年７月５日

編集:郡山市
JA 郡山市（℡.921-0724）
NOSAI 郡山田村（℡.933-3307）
県中農林事務所農業振興普及部（℡.935-1310）

発行:郡山市農作物生産対策協議会（郡山市営農推進課 ℡.924-3761）

Vol.6　　次号は７月中旬（穂肥等）

＊最新号は JA 各支店窓口にそなえつけてあります



７月５日　生育調査結果

品種	年次	草丈	茎数(本)		葉令
（調査地点）		(cm)	株あたり	㎡あたり	
コシヒカリ	本年	63.5	33.7	529	9.4
（三穂田）	平年比(%)・差	121	104	85	0.9
コシヒカリ	本年	62	28.1	579	9.2
（田村）	平年比(%)・差	111	97	101	0.4
ひとめぼれ	本年	52.9	34.3	515	8.8
（安積）	平年比(%)・差	121	134	130	0.6
天のつぶ	本年	55.7	22.4	364	8.7
（喜久田）	前年比(%)・差	137	87	76	1.2
あきたこまち	本年	44.5	26.2	337	7.4
（湖南）	平年比(%)・差	112	141	91	0.6

１　生育概況

６月の気温は、平年に比べ最高気温、最低気温ともに高めとなり、日照時間が多く、降水量が少なくなりました。

７月５日の生育調査では平年に比べ、草丈は長く、茎数はほ場によってバラツキが大きい状況です。葉色は平年並からやや淡くなっています。生育は５日程度進んでおり、天のつぶ、ひとめぼれで幼穂が確認されました。

２　天気予報

＜東北地方　１か月予報＞(６月２８日　仙台管区気象台発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。

＜東北地方　３か月予報＞(６月２５日　仙台管区気象台発表)

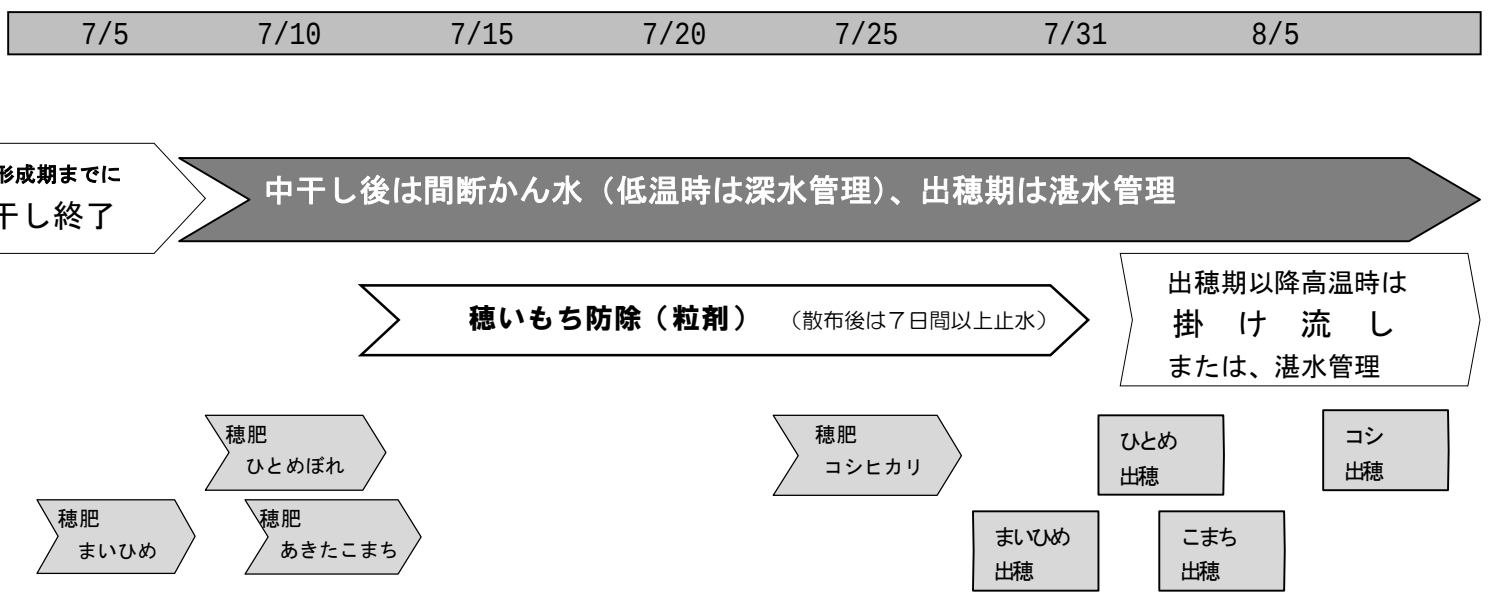
８月　平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。
　　降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。

９月　平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。

３　作業の目安（管内主要品種の予想値です。ほ場ごとに生育を確認し作業日程を決めて下さい。）

出穂期　　平坦部　コシヒカリ：8/7　ひとめぼれ：8/1　高冷地　あきたこまち：8/3　まいひめ：7/30

幼穂形成始期　平坦部　コシヒカリ：7/13　ひとめぼれ：7/7　高冷地　あきたこまち：7/9　まいひめ：7/4



４　水管理

（１）中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。

（２）出穂期以降に高温が続く場合は、できるだけ掛け流しとし水田の水温・地温を下げ根の活力を維持しましょう。

５　穂肥（出穂２５日前の生育状況で判断します。）

追肥のチッソ成分２ｋｇの目安（１０ａあたり）

肥料銘柄	N-P-K	効き方	施用量
ＮＫＣ６号	17-0-17	早い	１２ｋｇ
ＩＢ４号	15-4-15	ややゆっくり	１３ｋｇ
こおりやま２号（有機入り）	10-2-10	ゆっくり (5日早く施用)	２０ｋｇ

（１）ひとめぼれは、出穂２５日前にチッソ成分2kg/１０aを基本とします。
　コシヒカリは、倒伏しやすいので出穂１５日前にチッソ成分2kg/１０aを基本とします。
　有機質肥料の場合は、ゆっくり効くので、5日程度早く施用しましょう。

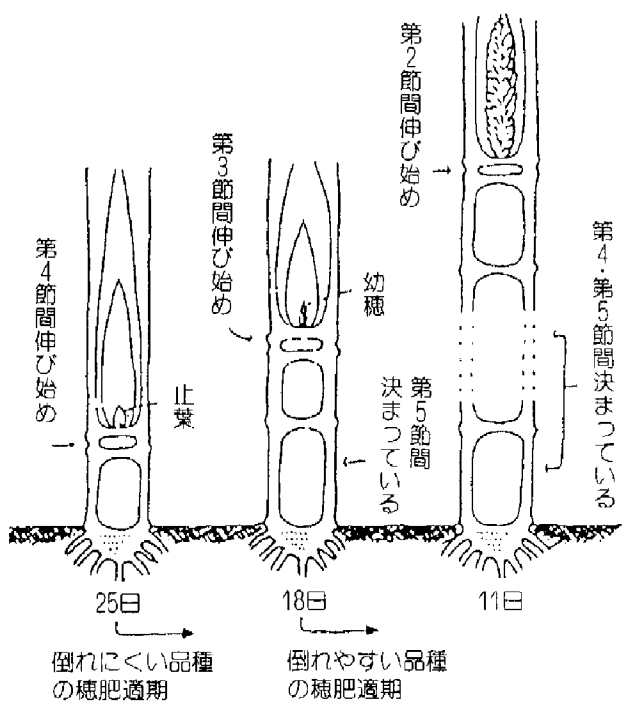
（２）幼穂長による出穂前日数の判定（出穂期は天候により変化しますので幼穂長を確認しましょう）

幼穂長	出穂前日数	備考
1.0mm	２５日	幼穂形成始期
2.0mm	２０日	
20.0mm	１５日	
80.0mm	１２日	減数分裂期

（３）出穂２５日前に生育を確認し、草丈が長く葉色の濃いほ場は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。

出穂２５日前の生育の目安

品種	草丈	葉色
ひとめぼれ	６０～６５cm	3.5～4.0
コシヒカリ	６５～７０cm	3.0～3.5



（４）**基肥一発肥料の場合は、原則として穂肥は行いません。**

「適正な穂肥の実施で倒伏による放射性物質汚染防止を！」

６　いもち病対策

梅雨入りし、いもち病に感染しやすい気象条件となっています。いもち病感染の危険が高まっていますので注意してください。

（１）**早期発見・早期防除につとめ、葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。**

（２）**粒剤で穂いもち予防する場合は、下記薬剤等を散布しましょう。（湛水状態で散布し7日間以上止水）**

コラトップ粒剤５　出穂３０～５日前　　３～４kg/10a

フジワン粒剤　　出穂３０～１０日前　３～５kg/10a

７　カメムシ類対策　　病害虫発生予察情報：県内全域で斑点米カメムシ類多発注意報が発令されました！

出穂14日前頃までに畦畔雑草の草刈りをしましょう。薬剤で防除する場合は、下記薬剤等を散布しましょう。

（１）水面施用剤による防除：穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布し、7日間以上止水。
　防除薬剤：スタークル粒剤(3kg/10a)など

（２）散布剤による防除　　：乳熟期（出穂7～10日後）の薬剤散布が基本。
　その後、発生が予想される場合は7日おきに追加防除。
　防除薬剤：ＭＲ.ジョーカー粉剤ＤＬ(3～4kg/10a)、スミバッサ粉剤20ＤＬ(3～4kg/10a)など

※ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡（所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661）を密にし、事故のないようにしましょう。

８　稲こうじ病

稲こうじ病は、他の病気と違い病原菌の菌核が大きくて重く、あまり移動しません。従って、**前年発生した水田では今年も発生しやすい**条件にあります。薬剤で予防する場合は、下記薬剤等を散布しましょう。

モンガリット粒剤　　出穂21～14日前　（３～４kg/10a）

Ｚボルドー粉剤ＤＬ　出穂20～10日前　（３～４kg/10a）

この資料は、平成２５年７月２日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

平成25年度福島県農薬危害防止運動展開中(6／10～9／10)

草刈り作業時の農作業事故に注意しましょう！